

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	なかはら ゆみこ	所属・職名
	中原 由望子	大阪府立大学大学院 人間社会学研究科博士後期課程
発表題名 (英語)	Male Depend on a Bond with the Souse : Masculinity of Elderly male	
著者名	Yumiko Nakahara	
会議名 (英語)	14th European Symposium of Suicide & Suicidal Behavior	
開催地(国、市)	Israel, Tel-Aviv	
参加期間	2012 年 9 月 3 日 ~ 9 月 6 日	
<p>私は、2012 年 9 月 3 日～9 月 6 日にイスラエルのテルアビブで開催された 14th European Symposium of Suicide &amp; Suicidal Behavior に出席した。その際に、GCOE の渡航助成を受けた。</p> <p>この学会は自殺をテーマに、心理学、公衆衛生学、神経生物学、精神病理学、社会学など様々な領域からアプローチする研究を集め、発表が行われた。発表された事例は開催国のイスラエルが最も多く、それ以外にもフランス、ハンガリー、イギリス、スペイン、オランダ、アメリカ、中国、韓国、日本など多様な事例が発表された。</p> <p>私は、日本の高齢独身男性の孤独感と、男性が内在化している男らしさについての考察を発表した。発表後の質疑応答では、日本の高齢者とその子供家族の心理的距離が非常に近いという印象を受けた、という意見をいくつかもらった。高齢期の個人的な意思決定の尊重のされ方に文化的相違があるという意見を多くもらい、なかでも、高齢者が失敗をしでかした場合には子供がそれを責める権利も責任を負う義務もないのではないかという内容の指摘を複数受けた。また、社会の高齢化の度合いが異なっており高齢者が研究対象として取り上げられない国も少なくないため、異国間で比較をすることが難しいのではないかという指摘を受けたり、そもそも高齢男性に男らしさはあるのかということについて複数の質問者と同時に意見交換を行ったりすることができた。他にも、日本人は他者に対してノーと言えない(言わない)文化を内在化しているというが、実の親に対する態度は礼儀を欠いており手厳しいのではないかという指摘もあり、日本特有の規範や意識が高齢独身男性の地位や立場に大きく関与している可能性を指摘された。私の発表についてこうした意見をもらえたことに非常に感謝している。</p> <p>この学会で、他国の高齢者の孤独感への社会的対処やそれに対する調査方法に関する議論を聞くことができたことは大変刺激的であった。この機会を与えていただいたことに、深く感謝している。</p>		

学会発表渡航支援報告書

